

科学技術イノベーションの実現のために

世界の知を取り込みグローバルに展開する

2012年9月28日

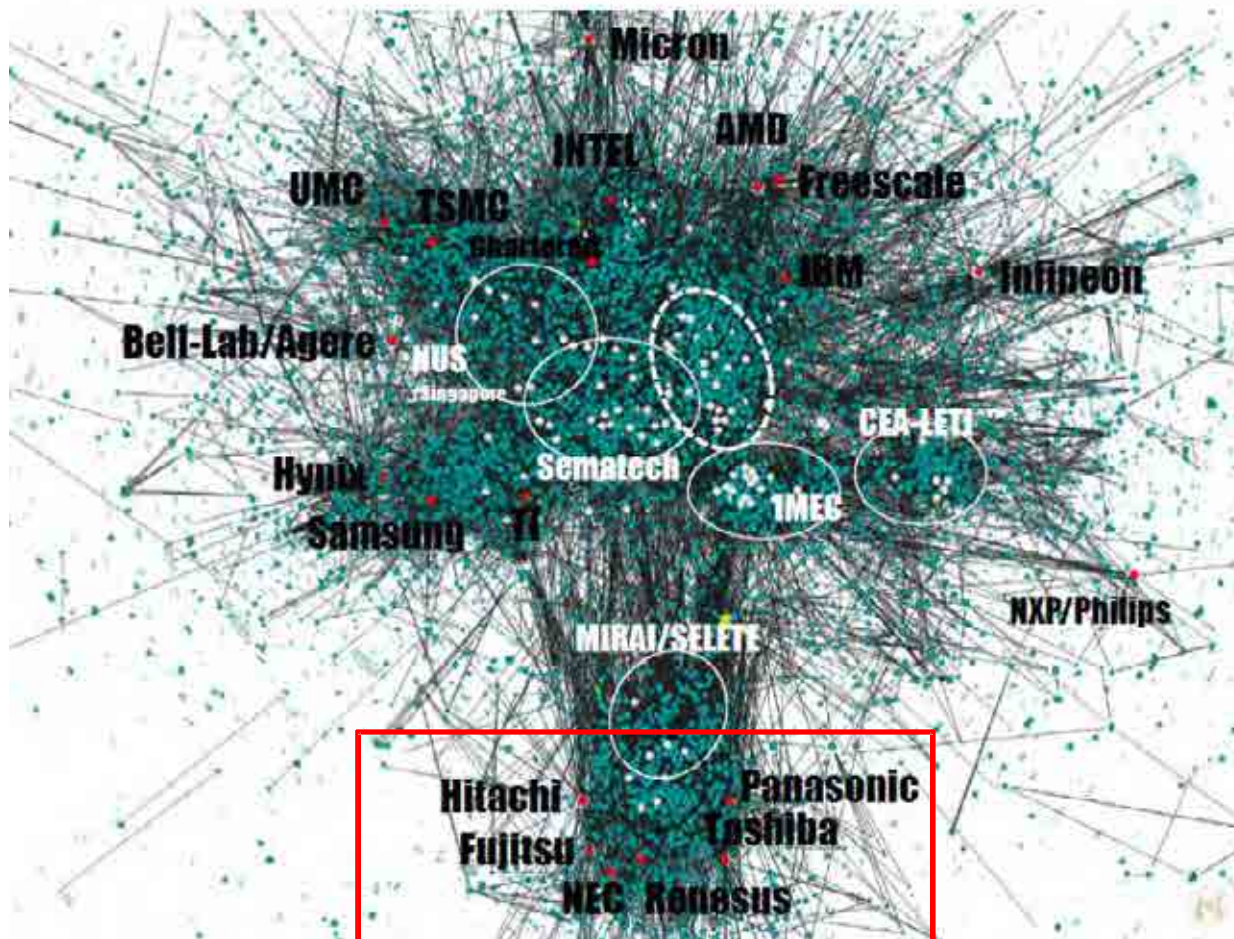
経済産業省大臣官房審議官

中西 宏典

国際的な研究開発の流れから孤立する日本

優れた研究成果を戦略的・効率的に活用し、如何に早くグローバル市場を獲得するかというグローバルイノベーション競争が進展。
他方、日本企業は、研究開発のグローバルネットワークから孤立化。

最先端半導体技術であるHigh-k/Metal Gateに係る研究者間の共発明・共著



ü 緊密度の高い研究者が図の中央に、緊密度の低い研究者が図の周辺に位置する分析手法。

ü 最先端の半導体プロセス技術のグローバルネットワークにおいて、我が国企業は世界のネットワークの離れ小島に位置。

(出所)「半導体産業における国際競争力低下要因を探る」中馬宏之

研究開発の国際化に向けた取り組みの方向性

グローバル化の進展の中、日本の研究開発拠点が海外に展開、これを放置すれば、競争力の低下の可能性も。他方で、研究開発の国際的な展開に対応する必要も。

日本の強みの源泉の一つである研究開発力を国内にしっかりと確保しつつ、国際的な連携を通じ、知の流れに貢献していくことが求められる。



基礎研究

- ・非競争領域では積極的なオープン戦略
- ・グローバルな知を我が国に呼び込んで国内のイノベーションのネタを喚起

実用化を見据えた研究開発

- ・協調領域と競争領域を峻別したオープン&クローズド戦略に基づく国際連携
- ・標準化、市場化等も視野に入れた国際連携

世界の知を取り込みグローバルに展開する

世界に蓄積された“知”を日本に取り込み、それらも活用し、戦略的に我が国発のイノベーションをグローバルに展開することが必要。

国家プロジェクトへの海外の知の取り込み

- ・国家プロジェクトについて、日本としての利害得失を考慮し、海外の知をうまく取込む。
 - (1) 海外の企業や大学に技術的な優位性がある場合（技術獲得型）
 - (2) 人材、設備、知財、規制等の面で優れた環境を有する研究拠点が海外にある場合（研究環境活用型）
 - (3) 研究成果の有力ユーザーが海外企業である場合や、技術実証、標準化の取組が、海外企業等との共同実施により促進される場合（市場獲得型）→ 類型毎に国費投入の要否や知財管理の在り方等の方向性を国として明確化。

国際共同研究支援プログラムの構築

・世界に先駆けたイノベーションを創出する研究開発について、海外の研究開発リソースを有効活用しつつ進められることを促進するため、新たな国際共同研究支援プログラムの創設を検討。

しっかりとした守りの構築

・国内あるいは海外において研究開発における連携が活発化することに伴い、技術流出防止の観点から知財管理等一層の配慮が必要、ガイドライン等の整備が必要。